



研究の現場から

モラルサイエンス研究推進プロジェクト

現代の文明状況に対応した 新たなモラルサイエンスを構想する

道徳科学研究所 主任研究員
モラルサイエンス研究推進プロジェクトリーダー

川久保剛

モラルサイエンス研究推進プロジェクトは、(1)企業倫理・道経一体、(2)道徳哲学・倫理学、(3)公共圏の問題の三つ領域に基づき研究を推進します。

十八世紀のスコットランドで勃興したヒューム、アダム・スミスのモラルサイエンスならびにアリストテレス以降の欧米の共和主義の伝統を意識しながら、経済と道徳、政治と道徳、法(法律)と道徳、市民と道徳などの関係性を相互連関的・全体的に探究し、現代の文明状況に対応した新たなモラルサイエンスを構想することが本プロジェクトの目的です。

今年度は、(1)企業倫理・道経一体の領域では、「『企業倫理』と『道経一体』のへあいだを問う」と題した研究会を令和四年三月九日に開催します。発表者は大野正英

氏(道科学研究主幹)、コメンテーターは寺本佳苗氏(麗澤大学准教授)、藤井大拙氏(企業センター副センター長)です。

(2)道徳哲学・倫理学の領域では、五月十二日に梅田徹氏(道科学研究教授)を発表者、江島顕一氏(同 主任研究員)をコメンテーターとして「道徳教育における人権教育の位置づけ」と題した研究会を開催したほか、七月七日に竹中信介氏(同 研究員)、宗像俊輔氏(同 研究助手)を発表者に「歴史と倫理」と題した研究会を開催しました。また十一月十日には、ピーター・ラフ氏(同 客員教授)と小山高正氏(同 客員教授)を発表者に「倫理、道徳、モラロジー」と題した研究会を開催します。

(3)公共圏の問題に関しては、「近代社会教育の実践と実態」と題したコロキウム

を十月二十日に開催します。スピーカーは田所祐史氏(京都府立大学准教授)、藤本頼生氏(國學院大学准教授)、小平美香氏(学習院大学・学習院女子大学非常勤講師、天祖神社宮司)、井上兼一氏(皇學館大学准教授)です。

本プロジェクトでは、このような研究企画の推進を通して新たなモラルサイエンスの構想をめざすとともに、それを廣池千九郎のモラルサイエンス学説である「モラロジー」と対質させ、より高次のモラルサイエンス理論を開示するという道科研全体の課題意識に積極的に参与していく方針です。

なお本プロジェクトは、サブリーダーの冬月律氏(道科研主任研究員)、コーディネーターの横田理宇氏(同 研究員)を中心に推進してまいります。